



葛飾北斎「浮世画譜」より

平成24年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

山口町人安部氏の奥州旅日記

© 「恋じいるまかい道」
No.3

ノ法門にエシテ今ハ法テ
トナル凡ニバノセカ
上人傳シテ

八坂

八坂 法中ニ〇リ種名向ニシ種チスト子
セリアリ

けり年人入ルルニタテモスアリ

よきり

〇山中法法ニテ種チカラ

カキ種アリ種多ク法チリ

増

増 者性や州あり伯リクニテ

十百早名と云過言カケテ平ハ端

もアリ種ホウノトシテセリロカカル

以下分レタガリ道チニシタカ文曰

ひと川ロ人カカカカカカカカカカ

ニリ

ニリ

大川アリヨ根川

白井

大セリ

大下風

種子種多ク法チ

けあカニあツカフケ種多ク種チ

あ氏ノ種や名なトラスセリリ種多ク

ふめ川 法中ニシタカ文曰

種多ク種チ

あ氏ノ種や名なトラスセリリ種多ク

皆リ又來あしと下ん

二十一日 東照宮 舟のあき方
はねの川冠

○、香取大神宮 系流する
アリ、系

後世に多し
山、系

○、香取止金剛宝寺 系流する

御本地 系をしい地ナリ
三ノ塔者ニス 御年印也

一、うまの川の方流り了るも流り

はあふ物うかり揃えのひるに流

すはかき流るるのふ東照宮は扇

まじり流り川中流り系流る

皆流るる一系流るる

流るる系流るる
流るる系流るる

一、うまの川

三ノ川中流にアル一石あり
昔橋の傍にありてカノ一石をかり

通人交多る 在女名をむはくを也

ノシロ也 さら文あり

度と 中り此のまゝ
にゆけりニリリ

大母は之とあるも井方十平の
町Pリ

かこいふ事申す

○藤原の事 山崎町家多し町中

丹者 秋はらあ向きありしに
だきつく

おまかせの事 前清の人を花より
遊ばせ

あつた地とありしとありし
まかニ下り真イソノ大神社名前

氏さく玉植ハキハタケツエウニ
エモノ

寸にタリニ行下リ又ニ

○清の地名 池
積り方 冷白氷清し

又合入行ノ三丁

○やうめい 玉カキ 石ノ御座ト云

ひし... なる... なる... なる...

あるけ... なる...

目ヨリ松林ノ中自東北行ハ可

○結神 見目明神社有

ヌカヤ自ヲ分テテヤ行ハ

○たの... 系... 亂... 悪鬼退治地

○三丁中エキテ スエ丁七川有

是日御... 清ノ玉... あり...

山... 上下...

△と... 白... 或 在島濱 自北東荒海 不...

夫ヨリ以前ノ道地ハ

○... 江有○鐘屋公社有

夫ヨリ又ス... なる...

... なる...

...

一十三日... 時... 純子...

... なる...

夫ヨリ又文おぼ、半ノ序ヲシテ
新ノ本ニ書キ
山ノ下ニ立テ
カケル

一十三日四ツ時飛子カ所所ノ名
多ヤ村伝を柱ノ名及訪ヒ所方
禁内名ヲ取所方ニ也

○沼山カ福寺觀音ノ寺也
以系才九七歳 橋ノ有 多宝塔有
福寺ノ名

○和邇不動 石且ノ石石毫口ヨリ
吐水 形ノ多水ノ如シ
在院ノ川口 漢ニハ尚書ニカ
富田有
又ヨリ 漢ノ出

○川口白紙明神社有
浦傳カ行ハ ぬもリカ
河ノ橋 君ノ名 系ノ名
此所ノ屋有 系ノ名 洞ノ名

此乃高少うみちくも
西面有杉林、ももも
たふひるあまを祝
りし

ふりなを祝ふ

此の末女は早稲アリ

まのめをひかき上り松林
同リにあり

一十回蘇り成る風かてハ潮

し朝一申す社、カミ

○息栖大神宮山訪

△尾流音有息栖、東より社

片方御殿西向松林、内之社

初夜以馬、鳥の次風あり
とて、こころを、あまの風
に、きこえ、あまの風

思ふ一、かまの年、あまの
風、かまの年、あまの

初夜は身も心も
いよいよこころも
シテシテの風
シテシテの風
シテシテの風
シテシテの風

思ふにカヤも
スルヤウ
シテ風
不
又
あ
身
同
は
イ
か

二十五日
は
は
は
は